

2025年度以降のJABEE認定・審査関連文書の変更に関するパブリックコメントについて（回答）

2025年4月2日

一般社団法人 日本技術者教育認定機構
(JABEE)

平素より、JABEEの技術者教育認定の活動に対してご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

JABEEでは、昨年7月に2025年度以降の認定・審査関連文書案に対するパブリックコメント（意見公募）を実施いたしました。皆様から多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。いただいたご意見を反映させた文書を昨年12月に公開いたしました。

皆様のご意見と、それらに関するJABEEの見解や今後の取り組みなどについて、以下に一覧表として整理いたしましたので、お知らせいたします。

以上

質問	パブリックコメントに対していただいた公募意見	応募意見への回答
1-1. 「変更の考え方」に、ご意見がありましたら、ご記載ください。	1 よいのではないかと思います。	ご意見ありがとうございます。
	2 「GA & PC (Graduate Attributes and Professional Competencies) 改訂への対応」としてSDG sを意識させることは重要であると思います。	ご意見ありがとうございます。
	3 とくにございません。実施してみても、様子をうかがう、とだけ付け言します。	ご意見ありがとうございます。今後の審査の状況をフィードバックして改善に努めます。
	4 国連の進め方はわかるが、少なくとも、先進国については、実際、このような考え方は理解しているのか？ 同調しているのか？	SDGsに関して様々な意見があることは承知していますが、ワシントン協定の加盟国はGA&PCの考え方を理解して、同調していると考えています。そして、JABEEはワシントン協定に加盟していますので、その方針に従う必要があります。
	5 賛同	ご意見ありがとうございます。
	6 世の中の変化に対応した考え方であり同意します。	ご意見ありがとうございます。
	7 方針に賛成いたします	ご意見ありがとうございます。
	8 自己点検書や審査への影響が不明瞭であり、もう少し分かりやすく解説してほしい。	「認定基準の解説」の解説文の変更の趣旨が、受審校関係者や審査員に適切に伝わるように、受審校向け研修会や審査員研修会の内容を整備いたします。
1-2. 「認定基準の解説」の改定案に関するご意見がありましたら、具体的な場所とご意見や修正案をご記載ください。	1 critical thinking ですが、辞書に書いてあることをそのまま訳せば確かに批判的思考ですが、もう少し調べると単なる「批判」ではないように思います。「批判」というと「否定」ととらえる人も多いように思います。検索すればいろいろ概念も書かれていますので、お調べになってもう少し適切な表現に改められたほうがよいと思います。	「批判的思考」は「Critical thinking」の訳語として広く使われていると認識していますが、ご意見も踏まえて「クリティカルシンキング」としました。JABEEは当該用語を含めて、できるだけ一般に通じる用語使用を心がけています。このため、社会での用語使用の状況を注視の上、より適切な表現について継続検討することとしました。
	2 「知識・能力観点(i)：「多様で包摂的な集団の構成員として」他者と協働することを追記」とありますが、その重要性は十分理解しているものの、大学という組織の中における多様性には限界がある。仮に、電気や機械、情報などが工学部にはあるものの、それらと交わって何かをするというカリキュラム構成は極めて困難であると言わざるを得ない。JABEEが求めている多様で包摂的な集団とはどのような組織を言うのか例示いただきたい。	ご意見ありがとうございます。今後の審査を介して事例を蓄積し、当該事例を関係者の方々と共有し、受審校向け研修会や審査員研修会の内容に反映させてまいります。
	3 「GA & PC (Graduate Attributes and Professional Competencies) 改訂への対応」として、知識・能力観点(g)にlogical thinkingに加えて、critical thinkingを加えることは賛成です。ただ、どのような講義（特に既設）でどのようにそれを意識・修得・実践させるかは難しいように思います。一つの例としては、「文章」（例えば新聞記事）を批判的に読むというようなことを実践することがあるかもしれませんが、学部では、この2つの思考法でよいと思いますが、大学院教育では、lateral thinkingにも触れる必要があるように思います。	ご意見ありがとうございます。高等教育に関わる関係機関と連携して、対応していきたいと考えております。
	4 とくにございません。上記1-1のスタンスです。	ご意見ありがとうございます。
	5 あまり、大きな改定もないのでいいと思うが、結局、審査項目が増えていく印象があります。	ご意見ありがとうございます。今回の改訂では、審査項目自体は増加していないと考えております。
	6 「知識・能力観点(e)：「脱炭素化を含む持続可能な社会構築等に向けて」を追記」について 「脱炭素化を含む」という文言を加えることは適切ではないと考えます。「脱炭素」は石油・石炭を利用しないということですが、炭素は一次エネルギー源であり、または生命体にとっても主要構成成分でありエネルギー源です。炭素を酸化して得られるエネルギーを排除して生命を維持し、また社会を持続的に維持することはできません。大気中の二酸化炭素濃度の増加と気温上昇は共に上昇していますが、二酸化炭素濃度の増加が気温上昇の主要因であるということについては近年少なからず疑念が持たれています。気温が上昇すると海洋水の二酸化炭素溶解度は低下し結果大気中の二酸化炭素濃度が増大します。「脱炭素化を含む」を書き加えるとは、「脱炭素」に向けた努力をプログラムに強いることとなります。「二酸化炭素」と気温上昇との関係が明瞭でない現時点では、「脱炭素」という文言を取って加えるべきではないと考えます。	ご指摘通り、(e)のポイントは持続可能性であると考えています。しかしながら、「脱炭素化」はJABEEが加盟するワシントン協定のGA&PCに記載されていることから、JABEEが同じポジションであることを示す必要があり、この文言を記載しております。
	7 能力観点(e)の解説のうち、 『すなわち、単なる設計図面制作ではなく、脱炭素化を含む持続可能な社会構築等に向けて「必ずしも解が一つではない課題に対して、種々の学問・技術を利用し、実現可能な解を見つけ出ししていくこと」であり、』 の『脱炭素化を含む持続可能な社会構築等に向けて』はエンジニアリングデザインの主目的が脱炭素化を含む持続可能な社会構築であるかのような印象を与えます（等があります）。例えば、仮想現実のゲーム開発課題では、これは当てはまらないからいいんだ、となりそうです。次のように『脱炭素化』云々を別の文に入れたいでしょうか。 『すなわち、単なる設計図面制作ではなく、「必ずしも解が一つではない課題に対して、種々の学問・技術を利用し、実現可能な解を見つけ出ししていくこと」であり、（文末まで省略）。これからのエンジニアリングデザインでは、脱炭素化を含む持続可能な社会構築に配慮できる能力が求められることに留意する。』 先のゲームの例では「仮想現実のゲームは実際に自動車ゲームセンターに行くよりCO2排出が少なくなるか、PCの電力消費を抑える必要があるか」「仮想現実と実社会の区別がつかなくなる問題はないか」などなど、脱炭素化や持続可能な社会構築に関する課題に目を向けてください、ということです。	ご提案ありがとうございます。ご提案の変更を盛り込みます。
8 基準3.1の解説文の内、「主要である科目」が「重要な科目」に変更された理由や背景を教えてくださいませんか。 P26 解説文9行目 (エンジニアリング系学士課程 2019年度～) 「この観点に基づき、学習・教育到達目標達成にとって主要である科目については、(以下省略)」 (パブリックコメント募集用) 「この観点に基づき、学習・教育到達目標の達成にとって重要な科目については、(以下省略)」 建築分野内の意見交換では、「現地審査が1日かつ主審査員に限られるので、主要な科目の成績根拠資料を全て確認するのは現実的ではないことから、プログラム側より学習・教育到達目標を達成する重要な科目を提示して全科目チェックを回避することを念頭に置いているのではないかと」「コロナ対応の審査方法(2-3科目に限定)を検証した結果、特に不具合がなかったと判断したのではないかと」という意見でした。解釈によって根拠資料の内容が変わるため、理由を開示して頂くのが良いという判断です。	基準の解釈については従来から変更しておりません。文書の中で言葉の統一を考えておりましたが、「重要」と「主要」では、言葉の意味が異なることから、従来の「主要」に戻します。文書の中で「主要」な科目は審査の対象科目として取り扱います。	
9 <基準1.1> 要請すべき人材（技術者）像は、教育機関が設定するものは卒業時、JABEEが求めるものは社会に出てから少し経過後のものであり、異なっています。プログラム側としては、2つ設定する必要があり、紛らわしく、負担になっているのではないのでしょうか。	文部科学省は、デプロマポリシー(DP)、アドミッションポリシー(AP)、カリキュラムポリシー(CP)の3つのポリシーの上に「養成する人材像」の設定を求めています。JABEEとの対比では、「学習・教育到達目標」は「DP」、「育成する人材像」は「養成する人材像」に対応しており、設定における余分な負担はないと考えております。	
10 <基準1.2> 基準変更時に、特に、学習・教育到達目標が全学年が一斉に変更されるのか、年次進行になるのかがいまいちのように感じました。審査は実地審査実施年度のものが適用されることになっていますが、それまでの履修生は旧基準に適合していればよいので、ダブルスタンダードになっているのではないのでしょうか。	JABEEの審査では、審査時の直前に修了した学生の根拠資料を参照します。プログラムが今回の「基準の解説」に合わせて学習・教育到達目標を変更する場合であっても、最上級生にそれを適用することは求めておりません。	
11 <基準1.2> 学習・教育到達目標はディプロマポリシーとは別のものとされています。厳密には2つを作る必要があることになり、プログラム側の負担になるだけでなく、学生が分かりにくいという欠点があるように感じています。「学習・教育到達目標」=「ディプロマポリシー」ではいけないのでしょうか。	学習・教育到達目標とディプロマポリシーは同じものであっても問題ありません。その場合、学習・教育到達目標は、知識・能力観点水準を含めて具体化したものですので、ディプロマポリシーも同じレベルの設定が必要になります。	

	12	<基準2.1> 成績は「個々の学生」の達成度を表すものであることを明記する必要があるのではないだろうか。グループワークで、グループ全体の成績を一律に個々の学生の成績（なおかつ比率が高い）としていることがよく見受けられます。プログラム側だけでなく、審査員経験者ですら理解していないこともあります。「個々の学生の達成度とどこかに書いてあるのか」と言われたこともあります。	グループワークの評価に関しては、全グループ員に対し一律に同一評価結果を付けることが適切であると説明することができれば問題は無いと考えております。グループワークの評価手法についてはJABEEで定義することは難しく、プログラムが行っている評価を審査で確認することが適切と考えております。
	13	<判定の目安> 目安が示されているものの、分野によって判定水準が大きく異なっているように感じている。	ご意見ありがとうございます。分野間の判定水準の差については、認定の審議を介して事例を蓄積し、審査員研修会の内容に反映させたいと考えております。
	14	p10 上記の理解に基づいて行動する能力ですが、行動特性（コンピテンシー）とは異なる印象を受けました。OECD2030の予知・行動・振り返りの学習サイクルで代表される行動特性は特定の項目とつなげるべきでなく、全項目とつながっているものと考えます。上記の理解に基づいて行動し、継続的にその理解を改善し、行動に反映させていく能力としてはいかがでしょうか？	ご意見ありがとうございます。今後の改訂の参考にさせていただきます。
	15	p11 課題の解決に必要な、数学・・・該当する科学技術に系統的知識を適用し表現では、新たな概念の創造が意識されないような気がします。また、系統的知識だけでよいのでしょうか？統括的な知識の連関も含めたほうが良くないでしょうか？	ご意見ありがとうございます。今後の改訂の参考にさせていただきます。
	16	p12 多様性のメリットを考えると、素直な表現が必要ではないかと考えました。例えば、”他者と協働して、よりよいもの、より専門的に多様なものをより早く創造するための能力”を入れてはいかがでしょうか？	ご意見ありがとうございます。今後の改訂の参考にさせていただきます。
2-1. 「変更の考え方」に、ご意見がありましたら、ご記載ください。	1	よいのではないかと思います。	ご意見ありがとうございます。
	2	実地審査についてもWEBと訪問審査についてご検討をいただくことは重要だと思います。	ご意見ありがとうございます。
	3	できるかぎり「オンライン」は『副』としてとらえておきたい。	ご意見ありがとうございます。今後、審査の実態を確認し、改善してまいります。
	4	I T, D Xのツールはどんどん活用していけばいいが、やっぱり、実際はプログラム校へお邪魔し、学生の考え、思い、学習状況を確認したい。	ご意見ありがとうございます。2025年度以降は、遠隔調査と訪問調査を組み合わせ実地審査を行います。
	5	時代の変化に即した考え方であり同意します。審査の負担も減ることが予想されるので、審査費用の軽減につなげていただきたいと思います。	ご意見ありがとうございます。
	6	遠隔調査と訪問調査は「両方とも実施する」と読めますが、協議により、どちらか一方にしていたらどうか。あるいは、訪問調査は遠隔調査で不十分だった場合に限る等の限定的な運用としていただけないでしょうか。遠隔調査用には電子ファイル形式で閲覧できる資料を一式用意しますが、訪問調査用に印刷版も用意することになります。この場合、審査を受ける側の負担が単純に2倍になります。JABEEの本質である「教育の質の担保を確保する」のため、資料が2倍用意しなければならない理由もないと考えます	遠隔調査と訪問調査の2通りの調査を実施しますが、遠隔調査で確認できた項目は訪問調査では行わないので、二度手間にはならないと考えております。
	7	コロナ禍により余儀なくされたオンライン審査の思いがけない利点を生かした考え方だと思います。	ご意見ありがとうございます。
	8	遠隔審査を活用するようにされていますが、訪問審査を基本として、どうしても仕方がない時だけ遠隔を併用するのがいいと思います。	ご意見ありがとうございます。審査の質向上や効率化を図るには、遠隔と訪問の両方の適切な活用が重要と考えております。今後の審査の実態を確認し、改善してまいります。
	9	訪問審査で現地確認資料が大量にある場合。訪問審査の人員が主審査員1名ではきびしい。	遠隔調査と訪問調査で確認する資料を明確にしておき、可能な限り現地確認資料を絞る方向で審査をすすめていただきたいと思います。
	10	訪問審査の面談では、審査側が1名だと公平な面談ができない可能性がある。	海外の審査では1名の審査員で面談を行うことが多いと伺っております。国内のJABEE審査でも経験豊富な審査員の方々が賅って大勢いらっしゃいますので、審査員1名による面談で公平な審査が実現できるものと判断されます。
2-2. 「認定・審査の手順と方法」の改定案に関するご意見がありましたら、具体的な場所とご意見や修正案をご記載ください。	1	「遠隔と訪問を併用した審査」についてもご検討をいただき、ありがとうございます。 遠隔調査（WEB）・訪問調査・実地審査最終面談（または最終面談）（WEB）の3ステップで実地審査を構成することはあり得ると思います。しかし、遠隔調査（WEB）1・遠隔調査（WEB）2・訪問調査・実地審査最終面談（または最終面談）となりますと、実地審査に4日間を費やすこととなります。見かけ上の必要時間は14時30分ですが、受審校様と審査員様を少なくとも4日間拘束することとなります。さらに、事前打ち合わせ等を含めると審査チーム（審査団）や受審校様ともに、実地審査に7～8日が拘束されることになるのではと思います。これまでの実地審査でもこのような拘束日数は無かったように思います。受審校様も審査員様の負担増になるかと思われ、それを強く感じられると思います。もちろん、コロナ後で遠隔審査になり、それによる不具合や不十分である点が確認されまして、それに関する改善に沿った提案であると思いますが、どうも負担増のように感じられます。 実地審査のメインは遠隔で、サブを訪問として、実地審査を第2日目に最終面談を行う方向で、WEBシステムも改良・改善によりLIVE感の高い遠隔実地審査にできませんでしょうか（例えば、JABEE実地審査向けのWEBシステムの構築など）。ご検討をいただければと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。	ご意見ありがとうございます。今後、審査の実態を確認し、改善に努めてまいります。
	2	電子媒体でのやりとりのストレス軽減を望みます。点検フォームがExcelをベースに用意されていますが、これに書き込み（入力）することが極めて面倒です。このストレスに遭遇した人は皆さん同じことを仰っています。	審査員アンケート、各種委員会で具体的な点をご指摘いただき、改善に努めます。
	3	審査の手順や方法については、体系的に記載されているので、こんな感じがいいと思います。ただし、具体的な場所や修正意見については、個々に記載できないが、どうしても過去の審査経験からしてグレーゾーンがあるので、そこは、審査チームで意見を出し合う手法しかないと思います。	ご意見ありがとうございます。今後、審査の実態をモニタリングして手順を改善していきたいと考えていますので、ご協力よろしくお願い致します。
	4	オンラインと対面を併用することは適切と考えます	ご意見ありがとうございます。
	5	3.5 審査の流れ（7）実地審査最終面談とプログラム点検書（実地審査最終面談時）提出を訪問調査や他の遠隔調査と分離したのは、審査団方式を前提にしてプログラム側、審査側双方の便宜を図った良いやり方だと考えます。	ご意見ありがとうございます。今後も、手順の改善に努めていきますので、ご協力よろしくお願い致します。
	6	4.2.3 訪問調査（パブリックコメント募集用P22）に訪問調査に参加する審査員についての記述がありますが、建築系学士修士課程プログラムでは『審査団の構成基準 建築系学士修士課程用』が定められており、その主旨に沿って複数名による訪問審査チームを構成することが望まれます。 建築系学士修士課程固有の事情を文書に追記することは可能でしょうか？ （例：建築系学士修士課程プログラムでは『審査団の構成基準 建築系学士修士課程用』の主旨に沿って、審査チーム派遣機関は複数名による訪問審査チームを構成する。）	審査チーム派遣機関の判断により、複数審査員による訪問調査を認めています。
	7	審査団の構成 ・審査対象が高専の場合には、審査団に最低一人は高専の教員がいたほうがいいと思います。大学教員でも高専のシステムや現状を完全には理解していないので、わかる方がいらっしゃると審査が円滑に進むと思います。	ご意見ありがとうございます。
	8	審査団の構成 ・ウェブ審査をするようになってから、審査員が費やす時間が全体的に増えていきます。現地で審査する場合には、その場にある資料を閲覧させてもらえばよいのですが、ウェブ審査の場合にはウェブで見える形にしておいていただく必要があります。そのため、特に、ウェブ審査を円滑に進めるために、事前準備してもらった資料を詰めて、的確に伝えることが訪問審査だけで実施していた時以上に必要になっています。	ご意見ありがとうございます。審査の実態を把握して、改善に努めます。
2-3. 「審査の手引き」の改定案に関するご意見がありましたら、	1	「Web 会議による実地審査」の定義がわかりませんでした。説明がほしいと思います。	JABEEでは、Web会議ツールを用いて面談や施設見学をおこなうことを、「Web会議による実地審査」と称しています。JABEEでは、Google MeetをWeb会議ツールとして提供しております。
	2	2-2でも述べておられますが、JABEE実地審査用WEBシステムを構築して、LIVE感の高い遠隔審査をできるようにしていただければと思います。	ご意見ありがとうございます。今後の検討項目とさせていただきます。

具体的な場所とご意見や修正案をご記載ください。	3	とくにございませんが、認定候補プログラムの背景や教員構成を熟知した上で審査に取り組むことが、JABEEプログラム認定に必要な大きな要件と感じています。	ご意見ありがとうございます。背景や教員構成などは、自己点検書の概要欄に記載されているべきものと考えています。	
	4	上記2-2と一緒にですが、4、8水準に対する考え方が、個々の審査員の主観、プログラム校のこれまでのシラバス、伝統があるので、非常に判断、審査は難しいと思います。この水準の定量的な記載は難しいと思います。	ご意見ありがとうございます。ご指摘通り、水準に対して定量的に定めることは難しいと考えています。認定の審議内容をフィードバックして、審査員で共有を図ってきたいと考えております。	
	5	審査自体の時間は上限が設けられていますが、準備やとりまとめにかかる時間に制限がありません。厳格に守るためには、準備の時間がさらに延びることが予想されます。	ご意見ありがとうございます。遠隔調査や訪問調査を時間内に完了するためには事前の準備が重要と考えており、時間に制限を設けることは難しいと考えています。今後、審査の実態を把握して、準備を効率的に進めるやりかたを、審査員研修などを通して審査員の方々と共有したいと考えています。	
	6	付表3資料確認で、レポート、学士論文・修士論文が遠隔審査になっていますが、ページ数が多くなるので、訪問審査とすべきではないでしょうか。論文はオリジナリティがあるものほど、遠隔審査には向かないと思います。また、カメラで見せられて、見えないことがありました。	ご意見ありがとうございます。レポート・論文の調査では、タイトルや課題と採点基準、採点基準通りに採点されていることを確認をしますが、レポートの中身自体を調査することは少ないと考えています。	
	7	付表3施設見学は訪問審査にすべきではないでしょうか。特に、プログラム固有の施設は訪問必須です。共通施設はよほど特徴的でない限り、遠隔でもよいのかもしれない。	ご意見ありがとうございます。現時点では、プログラム固有の施設の確認は、訪問調査で行うことが適切と考えております。	
	3-1. その他、JABEEの基準、規定に関するご意見がありましたら、ご記載ください。	1	実地審査に来て、シラバス、成績資料などを一つ一つ見て重箱のすみをつくような審査員もいますし、ウェブ審査でしっかりした成績資料を一つだけ見せてすませるような受審校もあるように思います。審査員、受審校の研修時にはJABEEの趣旨を説明して過剰あるいは杜撰な審査・受審をしないように指導していただければと思います。	ご意見ありがとうございます。審査員研修会では、従来より、ご指摘の点を改善する活動を続けておりますが、同活動をさらに発展させてまいります。
	2	JABEEの基準、規定に関する意見はございません。よろしくお願ひ申し上げます。	ご意見ありがとうございました。	
3	大学全体でHPの管理を行っている場合に、コロナ禍の影響で審査が1年遅れると、データのアップデートの都合でURLなどが変更になり、審査資料の提示に不都合が生じることがあるので、早く元通りになることを期待しています。	ご意見ありがとうございます。2025年度以降は、従来の審査に戻りますので、よろしくお願ひ致します。		
4	認定回数に応じた「コールド免許」の制度をご検討ください。文科省に対してJABEE機構からの要求を強くしてください。認定プログラムに対して大きく・強いインセンティブを与えてください(たとえば、科研費申請等にJABEE認定要件を付加すること、入学者(新入生)に対して「JABEEプログラムってすごいんだってね」という印象を与える努力をすること、本当に「日本語で教育しているが、その内容は世界水準にあって、就職にプラスとなる価値を付加」すること、など)。よろしくお願ひします。	ご意見ありがとうございます。今後の活動の中で検討してまいります。		
5	数年前に審査内容が大きく改定され、わりと簡便的、簡略化したと思いますが、やっぱり、今回のPDF資料を確認すると審査項目、内容、準備などについて、読解力、判断力、大量の手間がかかる感じがしました。日本技術者教育認定基準については、グローバルな視点から必要と思いますが、あまりにも世界全体が、IT化、DX化していく社会環境、研究環境、経済環境になっているので、今後のJABEEそのものの体系についても見直す時期とも感じました。	ご意見ありがとうございます。今後のJABEEの活動の中で検討してまいります。		
6	特にありません。敢えていえば、審査団の方々の意見・コメントが「何を指しているのかわからない」場合もあるようですので、何の科目が規定のどこに抵触するのではないかと、など疑問点を明確に指示いただくと大変助かります。	ご意見ありがとうございます。審査員研修会を介し、審査の改善を行ってまいります。		
7	「認定基準そのものは変更せず、「認定基準の解説」に改訂の内容を反映させ、2025年度以降はそれに基づいて審査を実施する」とのことですが、この表現が曖昧なため、SDGsの考え方の取り入れについては「努力目標」であることを明記してほしい。	ご意見ありがとうございます。SDGsの考え方について自体は、従来の「基準の解説」の中に既に含まれていると考えています。今回の改訂はSDGsで使われている文言を用いて表現を見直しており、従来の基準を満足していれば2025年度の「基準の解説」の内容も満足していると考えています。		
8	ウェブ審査になってから、審査員のスキルが下がっているように感じています(人のことを言える立場ではありませんが)。事前の1泊研修や実地審査時の空き時間の情報交換が、審査テクニク等だけでなく自身のPDとして結構役に立っていました。	ご意見ありがとうございます。2025年度以降は、対面形式と遠隔形式のハイブリッド型の審査員研修会を実施いたしますので、ご指摘の点が改善されると思われます。		